

令和3年度第3回石狩市社会教育委員の会議議事録（要約）

日 時 令和4年3月11日（金）午後1時30分～3時00分

場 所 石狩市公民館第1研修室

出席者

[出席委員（12名）]

木村純委員長・大橋修作・出口寿久・林一元・船木幸弘・高橋美恵子・松本史子・永田志津子・二上朋子・納谷眞智子・小笠原英史・渡邊真奈美

[事務局（5名）] 教育長 佐々木隆哉・社会教育課長 板谷英郁・主査 斉藤晶・公民館担当主査 石井悟・公民館担当 主事 薩来翔希

[傍聴者（0名）]

（事務局）

定刻となりましたので、ただ今から、令和3年度第3回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。

はじめに、石狩市教育委員会教育長、佐々木隆哉より、ご挨拶申し上げます。

（教育長）

社会教育委員の2年の任期は本年5月に満了します。2年間、本市社会教育について熱心にご議論いただき感謝申し上げます。

この2年間はコロナに明け暮れました。公民館や学び交流センターの一時閉鎖など、社会教育に関する施設やイベントにも大きな影響を与え、社会教育委員が企画したガイドブックづくりも残念ながら進まなかったと聞きます。

しかし、市民文化祭のロングラン展示や社会教育委員の会議のオンライン開催など、できることを工夫してやる姿勢が定着し、新たな可能性を開いた2年間でした。加えて、委員長からはコロナ禍のもとでのサークル活動緊急調査という示唆に富んだレポートを提出いただくなど、記憶に残る2年間でもありました。

連日、ウクライナのニュースに胸を痛めている方も多いと思います。「国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」ことを目的のひとつにする教育に携わるものとして、ここであきらめてはいけないと強く思います。

また振り返ると、国際社会には一般市民が巻き込まれる軍事衝突や難民問題はずっと存在しているが、このウクライナ問題は、過去にないほど国民の関心を集めている。教育関係者は、このことについても立ち止まって考えるべきであるが、今はとにかく戦火が収まることを祈ります。

今年は4月の公民館を学び交流センターに移した後、公民館を解体し、社会教育課の執務室を市民図書館に移します。図書館と公民館の連携をさらに強め、市民への社会教育サービ

スのレベルアップを図りたいと考えていますので、今後も引き続き、皆さまの経験と知識をお貸しいただきたいと思います。

本日は、令和3年度の振り返りと次年度以降の方向性などを議論いただく予定です。ぜひ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、あらためて2年間の活動について、お礼を申し上げるとともに、皆さまの益々のご活躍をご記念し、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

続きまして、木村委員長より、ご挨拶をいただきたいと思います、宜しく願いいたします。

(木村委員長)

今日は久しぶりに皆さんにあえてとてもうれしいです。コロナウィルスに翻弄された2年間でしたが、やはり会って話すことは素晴らしいことだと思いました。

令和2年度、3年度の社会教育委員長等研修会で私は報告することになっていましたが、コロナウィルス感染症拡大により、どちらも中止になってしまいました。また、道社連協の副会長でしたので、依頼されて報告書を作成しました。公民館のサークル活動の調査と、「ちえりあ」の講座の調査をまとめたものを載せています。ご覧いただきご意見をください。

(事務局)

ありがとうございました。なお、教育長は、次の用務のため、ここで退席をさせていただきます。ご了承ください。

(教育長退席)

(事務局)

これ以降の進行については、委員長をお願いいたします。

(木村委員長)

会議次第に従いまして、会議を進めます。

まず「令和3年度社会教育事業実施報告について」、事務局から報告をお願いします。

(事務局説明 資料1 参照)

(二上) 市民文化祭の人数を教えてください。

(事務局) 資料に掲載してあるとおりです。

(船木) オンラインの動画鑑賞は YOUTUBE なので、実績としては、総視聴回数にした方がよいのではないか。

(事務局) カウントしているか所管部署に確認します。

(出口) 学校支援地域本部事業は、地区によって記載の仕方が違います。少なくとも対象参加人員は記載した方がよいのではないか。

(事務局) 集計はできますが、現在、報告書を取りまとめているところです。

(木村) 学校支援地域本部事業は重要なので、話し合いの基礎になるデータを把握した方がよいというご意見でした。

次に、「石狩市公民館移転に関する進捗状況について」、事務局から報告をお願いします。

(事務局説明 資料2 参照)

(二上) 渋井さんのカレンダーは無料ですか、有料ですか。

(事務局) 4月からのカレンダーで、学び交流センターに置き、先着で 200 名に無料でお渡しします。

(木村委員長)

次の議題に入ります。「令和4年度主要な社会教育事業の概要(案)」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明 資料3 参照)

(林) いしかり市民カレッジの主催講座が記載されておりますが、まちの先生企画講座、5講座15コマを実施予定です。今後はこれらの記載をお願いします。

(船木) 「ぽぽらーと」の運営形態が変わるとはどういうことか。

(事務局) 今年4月以降は、市民活動がしやすくなるよう、本を撤去します。代わりに、図書検索の端末機を北コミに置く予定です。

(船木) 大きく変わるのは、図書コーナーがなくなり、蔵書検索の貸し出しのシステムに代わるということです。

(木村委員長) それでは次に、議題(2) 石狩市地域学校協働本部事業について、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明 資料4 参照)

(木村委員長)

コーディネーターの配置予定は、どのようになっているのですか。

(事務局)

地域コーディネーターは、基本はボランティアです。コミュニティスクールに所属しています。9か所に配置できるよう年に1名ずつの増員する予定です。

令和6年には、各コミュニティスクールに地域コーディネーターが配置されるので、各学校が本部として自主的な活動してもらい、そこそこで課題を解決してもらうこととなります。社会教育課は地域コーディネーター同士のつながりを担うようにしていきます。

(出口) 資料の図を見ればわかりますが、いろいろな事業がいろいろな部署で行っています。関わる人は同一の場合が多いので、文科省がひとつの本部で取り扱いたいということ、名前も協働に変わったのです。

石狩市では、当初、ひとつの本部で各学校からボランティア派遣の依頼があって、ボランティアを派遣していました。その後、全部の学校でコミュニティスクールを導入することになり、各学校の中で組織を作るという方向転換がありました。

各学区に協働本部を作り、その中に各学校の地域コーディネーターがいて、そのコーディネーターが各学区内でボランティア活動の調整をしてもらおうという方向転換です。自治体でやっていたものを各学区で行うというのが大きな転換です。

具体的に説明しますと、学校の図書の整理をしてほしいという依頼があれば、地域コーディネーターが誰々さんをお願いするという調整をします。それを受けて人の調整や時間の調整をするのが地域コーディネーターです。

(二上) 地域コーディネーターはすごく責任を負わされているのではないかと思います。すごく責任大きくなりますが、そもそもボランティアですよ。

(事務局) 地域コーディネーターには謝金が支払われます。

(木村委員長) 地域の中で、市民との協働は大事です。それを社会教育活動の中で生み出していく、何ができるのかということを、社会教育委員も考えていかなければならないと思います。

(永田) 地域コーディネーターもボランティアも各地域で発掘するということですか。

(出口) 本当に専門性のあるニーズであれば、学校区を超えても構いません。基本的にはその地域で進めていこうということです。一般的に子どもたちへの支援は、専門性の必要なことは少ないです。

(永田) 人材発掘がうまくいくのかどうかにかかっていると思います。

(木村委員長) 人材がすぐに見つかる地域もありますし、そうでない地域もあります。

(納谷) 私もボランティアで子どもサロンに関わっています。ある時、高校生が興味を持って手伝いたいとの話がありました。思わず期待して嬉しかったのですが、実際はアルバイト感覚でした。関わって楽しいと感じられるのは、次のハードルを越えてからのようです。

(松本) 以前から小学校でボランティアをお願いしていることは、掛け算の九九検定やスキーの靴を履かせるお手伝い、家庭科のミシンのお手伝い等があります。

(納谷) 小学校一年生はお掃除が苦手です。私は、雑巾の使い方とかを教えるお手伝いをしています。また、家庭科のアイロンがけを一緒にしてあげたりとか。

(松本) 家庭科であれば、技術的なこともあるので、となりの学校にも手伝いにいくことがあります。

(出口) 往々にして、チラシを配りボランティアを募ると、でしゃばりな人が集まることが多いようです。「私なんて、できることは限られます」という人の方がやりだしたら、いいボランティアになることが多い気がします。

ボランティアは有償論、無償論ありますので、何が正しいのかわからないのですが、学校支援に関わっているひとすべてにお金を払えば、市の予算はバンクしてしまいます。あくまでも志のあるひとたちにやっていただくことなので、できることをできるひとにやってもらうという観点が大事です。口伝えで、「私がやってるから、あなたもやってみない」という方がうまくいきます。

人材バンクは必ずしもうまくいかないと思います。例えば、フラワーアレンジメントがで

きるということでボランティアに登録した人が、学校のニーズにフラワーアレンジメントがなければ、やめてしまうことがあります。「誰でもできることもやってもらいますよ」って、伝えていくべきで、年に何回か必ずボランティア活動をやってもらわないとならないと思います。

(永田)

一般的に、チラシ等で広く呼び掛けてもボランティアは意外と集まらないようです。何か自分でもできることがあったらしたいと考えているひとに、身近なひとから「こういうことがあるからやってみない」と誘いかけがあると、ボランティアに加わってくれますが、チラシ等ではボランティアは応募してこない場合は多い。

地域コーディネーターを見つけるには少し難しいと思いますが、普通のボランティアは、小中学校のPTA活動の中で、心当たりのある人とか引き受けてくれる可能性のある人を押さえていれば、大丈夫だと思われます。

(木村委員長)

声掛けできる人をどれだけ見つけられるのかが大事なところですよ。地域によって差があるので、お互いが学びあえるような機会を社会教育課が準備をすることが重要です。

(出口)

地域学校協働本部を学校区で作るということは、地域と子どもたちの関係を深めていくことになります。ボランティアは楽しく、いろいろなことがやりたいということも大事なことですし、子どもたちもお世話をしてもらうことに感謝という気持ちが出てくれば両方にメリットになる。学校区で作りやるということ、顔が見えるという大きなポイントがあります。

(事務局)

学校の子どもたちに何かしてもらってことができるという双方向のものを考えている。地域学校協働本部というものに変えることです。

(出口)

支援から協働に代わったのですが、よく言われるが、学校を支援して先生の負担が減って楽になったという側面もありますが、楽になったところは、しいては子どものためになっている。学校の先生は子どもたちのために汗をかいている。地域のひとたちも子どもたちのために一緒に汗をかいてくださいという考え方で支援から協働に変わったのです。

(納谷)

高齢者のひとたちは、自分に孫がいなくても、子どもと触れ合うと自分も癒されている。お互いさまという感じです。

(出口)

子どもから元気をもらっているという方はいます。

(木村)

社会教育的事業としても大事な取組なので、成果とか課題を共有していくことが大事です。

(出口)

公民館講座等で学んだ成果を活かす場として、地域学校協働活動につなげられないでしょうか。例えば、公民館で学んだことを活かし、1時間当たり千円のボランティアをのべ100人の方がすると、公民館事業が10万円の成果をあげたと言えるでしょう。

(納谷)

総合保健福祉センターりんくるにボランティアセンターがあり、ボランティアをするとスタンプをもらえます。そのスタンプがたまると謝礼をもらえるのですが、ボランティアの方たちはスタンプがたまるとはもとより、ボランティアに従事することがうれしいようです。

(船木)

20年くらい前にボランティアコーディネーターをしていた経験上思うことは、ボランティアに関するものに、行政や役所が手を出すというよりはあまりないです。言うなれば、有料労働を無賃労働にするということ。有料作業の横流しは要注意です。いいこともよくないものになる可能性がある。

また、ボランティアを育成して、活動に参加してもらうのではなく、この活動があるので、この活動に参加したいボランティアさんいませんかという形がよいと思います。

(木村委員長)

いろいろと意見が出ましたが、それぞれの方の経験を共有し、学びあっていくことが大事です。

それでは次に、議題(3)石狩市立緑苑台小学校の学校施設開放の廃止について、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明 資料5参照)

(木村)

石狩市内の学校施設利用はほかにはないのですか。

(事務局)

一般的には体育館の学校開放は広く行われています。

(永田)

先ほどの協働事業は、この開放事業に則り行うのですか。

(事務局)

協働事業には当てはまりません。

(高橋)

現在、使用する人が少ないのであれば、廃止してもいいと思います。

(出口)

地域の方はどれだけこの制度のことを知っているのか。

(事務局)

広報には毎年掲載しています。

(出口)

セキュリティ上の問題もありますが、人がたくさん出入りすることがセキュリティの向上につながるときもある。子どもたちはいろいろな大人と関わることによって、自分の心の居場所が広がっていく。また、いろいろな考え方があるということもわかる。そのためにも多くの大人が関わるように仕向けていくべきだと思っています。

いろいろな学校を見てきたが、公民館と学校が同じ敷地内にあるところは、自然と子供たちとのコミュニケーションがとれている。せっかくある仕組みをなくすのはもったいないが、使えない部屋を整理することも大事でしょう。

(木村)

地域学校協働事業とこの事業の廃止の結果を教訓にしてやっていくのが大事だと思います。基本的には、廃止に異論はありません。

ほかにご意見等はございませんか。

これで、今日の議題はすべて終わりましたが、全体を通して何かありますか。
無ければ、これで令和３年度第３回社会教育委員の会議を終わります。
お疲れさまでした。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

令和４年４月８日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木 村 純 印